

きょうのテーマ

耳が聞こえない、聞こえにくいアスリートの国際スポーツ大会「東京2025デフリンピック」が15日、日本で初めて開かれるよ。誰もが力を発揮できる社会の実現を目指す取り組みは、国連の



地球のためにできること

15日からデフリンピック

10 人や国の不平等をなくそう



佐々木選手 目標は「3冠」

会で、金メダルを獲得した仙台市太白区の佐々木琢磨選手(31)。100メートルの自己ベストは10秒59。普段は母校の仙台大(宮城県柴田町)で職員として働き、陸上競技部の学生と練習に励んでいます。

黄に切り替わり、緑になったらスタートです。本番が近づき、調子は上々です。スタート時の低い前傾姿勢、地面の反発を利用して走るフォームが安定し、佐々木選手も「4年間練習し、良くなってきました」と手応えを感じています。

返ります。八戸ろう学校中学部で陸上競技を始め、盛岡聴覚支援学校高等学校3年時の全国ろう学校陸上競技大会で100メートル、200メートル、400メートルの3冠を達成。仲間が喜んでくれるのがうれしく、走ることが生きがいになりました。



10月上旬は同大の陸上競技場でスタートダッシュの練習をしました。号砲の合図は、スタートラインに置いたランプで判断します。「位置について」で赤、「用意」で

佐々木選手は青森県五戸町出身で、子どもの頃から足は速い方でした。「友だちと駆けっこをしても勝って当たり前。走るのが好きというより、『次は俺が勝つ』と挑戦されるのが好きでした」と振り返り

デフリンピック 「耳が聞こえない」を意味する英語のデフ(deaf)とオリンピックを組み合わせた名称で、夏季と冬季の大会がそれぞれ4年に1度開かれます。1924年にフランスで始まった「世界ろう者競技大会」を起源とし、今年で100周年。日本初開催の東京2025デフリンピックは11月15〜26日にあり、70〜80カ国・地域の選手約3000人が21競技に参加します。



スタートランプを使って練習する佐々木選手(手前)＝10月7日、仙台大

デフリンピックは19歳でブルガリア・ソフィア大会(19年)に初出場し、今回で4回目。100メートル、200メートル、400メートルの1に出場予定で、3種目制覇の「3冠王」を目標に掲げます。

佐々木選手は「デフリンピックには、ろうへの理解を広める力があります。本番では、手で気持ちを届ける観客の応援『サインエール』を楽しみながら、自分を信じて走りたいです」と意気込んでいます。

この日 何の日

◇10日(月) トイレweek2025スタート
NPO法人日本トイレ研究所が制定。排せつへの理解を深め、健康や生活リズムを整えるきっかけにしてもらうのが目的。日付は11月10日で「いいトイレ」と読む語呂合わせ。「世界トイレの日」の19日まで。

きょうの紙面

- 2面 イマ★どき
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 キホンがわかる こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 デフリンピック日本代表に聞く

みんなの将来

みんな動こう

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ